

慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resources

Title	<input type="checkbox"/> 山宏教授略歴； <input type="checkbox"/> 山宏教授著作目録〔年代順〕
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2011
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.84, No.2 (2011. 2) ,p.673- 682
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	<input type="checkbox"/> 山宏教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20110228-0673

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

蔭山宏教授略歴

- 一九六八年三月 慶應義塾大学経済学部卒業
- 一九六八年四月 一橋大学大学院社会学研究科修士課程入学
- 一九七〇年四月 同博士課程入学
- 一九七四年三月 同課程修了
- 一九七四年四月 一橋大学社会学部助手
- 一九七七年四月 慶應義塾大学法学部専任講師
- 一九八二年四月 同学部助教授
- 一九八七年四月 同学部教授
- この間、慶應義塾大学、青山学院大学、横浜国立大学で非常勤講師
- 一九八七年 法学博士（慶應義塾大学）

蔭山宏教授著作目録〔年代順〕

一九七一年

八月 「ドイツ・ピエティスムスにおける人間と社会 (1) — ツインツェンドルフに即して —」

『二橋論叢』(二橋大学) 第六六卷第二号

一〇月 「ドイツ・ピエティスムスにおける人間と社会 (2) — ツインツェンドルフに即して —」

『二橋論叢』第六六卷第四号

一九七四年

一月 「ヴァイマル共和国の崩壊とタート派—危機克服の模索一九二九—一九三二—」

『季刊社会思想』(社会思想社) 第三卷三・四合併号

一九七五年

六月 「〔翻訳〕バラクラフ「虚像のヒトラー」」

一〇月 「〔翻訳〕バラクラフ「虚像のヒトラー」」

『みずず』第一八六号

一九七六年

六月 「ナチスの大衆政党への途—党内対立の問題—」

『二橋論叢』第七五卷第六号

- 七月 「戦後精神とウエーバー——ウエーバー思想受容の側面——」
『知の考古学』（社会思想社）第八・九合併号
- 三月 「ワイマール文化の社会的危機」（平井正他共著）『文化と文明の哲学』
学文社
- 一九七七年
六月—三日 「書評」 デューイ 『ドイツ哲学と政治 ナチズムの思想的淵源』（木鐸社）
『週刊読書人』第一一八五号
- 九月 「資本主義の精神をめぐって」（安藤英治他共著）『ウエーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」』
有斐閣
- 一〇月三二日 「書評」 レーヴィット 『ヤーコプ・ブルクハルト 歴史のなかの人間——』（みすず書房）
『週刊読書人』第一二〇四号
- 一九七八年
三月六日 「書評」 上山安敏 『ウエーバーとその社会』（ミネルヴァ書房）
『週刊読書人』第一二二一号
- 四月 「ルカーチと職業生活」
『塾生新聞』第一〇〇号
- 四月 「ワイマール精神史研究の前提——「保守革命」論研究①——」
『法学研究』（慶應義塾大学法学研究会）第五一卷第四号
- 一二月 「書評」 シェーンボウム 『ヒットラーの社会革命』（而立書房）
『三田学会雑誌』（慶應義塾大学経済学会）第七一卷六号
- 一二月—八日 「書評」 ランシマン 『マックス・ウエーバーの社会科学論』（法政大学出版局）
『週刊読書人』第一二六一号

- 一九七九年
六月 「紹介」ブーバー編『グスタフ・ランダウアー書簡集』 「塾」(慶應義塾) 第九五号
- 一九八〇年
三月 「思想史の基本文献―政治思想史の方法によせて―」 「三色旗」(慶應義塾大学通信教育部) 第三八四号
- 六月一六日 「書評」濱島朗『ウェーバーと社会主義』(有斐閣) 「週刊読書人」第一三三六号
- 九月八日 「書評」ラカー『ワイマル文化を生きた人びと』(ミネルヴァ書房) 「週刊読書人」第一三四七号
- 一九八一年
五月四日 「書評」生松敬三『二十世紀思想涉猟』(青土社) 「週刊読書人」第一三八〇号
- 六月一日 「デイトトリヒと同時代」 「慶應義塾大学報」第一二二二号
- 八月 「価値志向性の解体と現代」 「三色旗」第四〇一号
- 八月三一日 「書評」ケスラー『マックス・ウェーバー その思想と全体像』(三一書房) 「週刊読書人」第一三九六号
- 一九八二年
二月 「革命的ロマン主義」としての「保守革命」論 「法学研究」第五五卷第二号
- 四月 「生活形式と政治思想―ドイツ市民層の歴史的転換―」 「日本政治学会編『政治学と隣接諸科学の間―その交渉の現状と課題(年報政治学一九八〇年)』(岩波書店)

- 七月 「価値の攻撃性と共感について―マンとシュミットの所説を手がかりにして―」
『木鐸』（木鐸社）第四号
- 九月六日 「書評エッセイ」平井正『ベルリン 1928―1933 破局と転換の時代』（せりか書房）
『週刊読書人』第一四四七号
- 一二月 「ワイマール文化の一断面1―等価性の世界の概念―」
『みすず』第二六八号
- 一九八三年
二月 「ワイマール文化の一断面2―等価性の世界の概念―」
『みすず』第二七〇号
- 三月 「国会図書館群像」
『三色旗』第四二〇号
- 三月二日 「書評」ウェーバー『政治論集1・2』（みすず書房）
『週刊読書人』第一四七四号
- 六月 「遅れてきた」世代」
『三色旗』第四二三号
- 九月五日 「書評」アブラモフスキー『マックス・ウェーバー入門 西欧の合理化過程を手引きとする世界史』
『週刊読書人』第一四九七号
- 十一月四日 「書評」柳父園近『ウェーバーとトレルチ 宗教と支配についての試論』（みすず書房）
『週刊読書人』第一五〇七号
- 一九八四年
四月 「共訳」ハウ編『世紀末の診断一九八四年以後の世界』
『みすず書房』
- 五月 「都市文化状況としての（一九二〇年代）」
『国語通信』（筑摩書房）第二六五号

- 一九八五年
三月 「思想の社会学」に向けて」
『三色旗』第四四四号
- 六月 「市民社会と社会主義―革命的ロマン主義」との関連で―」
『法学研究』第五八卷六号
- 一九八六年
六月 著書 『ワイマール文化とファシズム』
みずず書房
- 七月一〇日 「初老の学生」
『塾生新聞』第一九二号
- 一〇月 「ドイツの大衆歌謡と日本」
『本』（講談社）一〇月号
- 一二月 「新著余滴『ワイマール文化とファシズム』」
『三田評論』第八七六号
- 一九八七年
一月 「トーマス・マン『非政治的人間の考察』をめぐって」
『三色旗』第四六六号
- 三月三〇日 「書評」コルプ 『ワイマール共和国史―研究の現状―』（刀水書房）
『週刊読書人』第一六七六号
- 四月 「都市論の二つの視点」
『三色旗』第四六九号
- 一九八八年
一月 「近代思想史の学び方について」
『三色旗』第四七八号
- 四月 共著 「読書の現在 読書アンケート」
みずず書房
- 一二月 「ジンメルと（一九二〇年代）」
『法学研究』第六一巻一二号
- 一九八九年

- 一月九日 「書評エッセイ」イーグルトン 「ワルター・ベンヤミン 革命的批評に向けて」(勁草書房)
「週刊読書人」第一七六五号
- 六月 「書評」鈴木了二「非建築的考察」(筑摩書房)
「法学研究」第六二卷六号
「共訳」バクター「ワイマール・エチュード」
みず書房
- 一九九〇年
二月五日 「書評」リンゼ「ワイマル共和国の予言者たち ヒトラーへの伏流」(ミネルヴァ書房)
「週刊読書人」第一八一九号
- 二月一〇日 「書評」野田宣雄「教養市民層からナチズムへ―比較宗教会史のこころみ―」(名古屋大学出版会)
「週刊ポスト」(小学館)第二一卷第六号
- 三月 「ロマン主義の精神構造―シュミット『政治的ロマン主義』に寄せて―」
「三田学会雑誌」第八二卷特別号Ⅱ
- 一九九一年
五月二五日 「書評」ハーフ「保守革命とモダニズム」(岩波書店)
「図書新聞」第二〇五四号
五月三一日 「書評」三島憲一「戦後ドイツ その知的歴史」(岩波書店)
「週刊ポスト」第二三卷第二二号
- 一九九二年
五月二日 「書評」ベッテルハイム「フロイトのウイーン」(みず書房)
「図書新聞」第二一〇〇号
七月六日 「書評」田中浩「カール・シュミット 魔性の政治学」(未来社)
「週刊読書人」第一九四一号
九月二六日 「書評」出口裕弘「古典の愛とエロス」(朝日新聞社)
「図書新聞」第二一一九号

- 一九九三年
一〇月 「理念」としての政治史を追う歴史学者 フリードリヒ・マイネッケ
『Mein Deutsch 基礎ドイツ語』(三修社) 第四四卷第六号
- 一九九四年
二月二日 「書評」ケスラー『ワイマル日記(上)』(富山房)
『図書新聞』第二一八五号
三月八日 「書評」平井正『ダダ／ナチ』全三卷(せりか書房)
『産経新聞』
- 一九九五年
八月 「ヘッセと一九二〇年代の混沌」(酒井忠泰他編『知られざるヘルマン・ヘッセの世界』)
毎日新聞社
- 一〇月二〇日 「書評」山本秀行『ナチズムの記憶 日常生活から見た第三帝国』(山川出版社)
『週刊ポスト』第二七卷第三九号
- 一二月 「やさしい微笑み」とキリスト教―「西欧文化とキリスト教」の「断面」― 『三色旗』第五七三号
- 一九九六年
九月 「ドイツ印象主義の社会的側面―大都市経験と芸術―」 『法学研究』第六九卷第九号
三月 「世紀転換期ベルリンの都市風景―「ミーツカゼルネ」とH. ツィレ―」(寺尾誠編『都市と文明』)
ミネルヴァ書房
- 一九九八年

- 一〇月 「植民都市」ベルリンの転変―〈ドイツと東方〉問題の一断面―（共著『近代国家の再検討』）
慶應義塾大学出版会
- 一九九九年 五月 「ナチズムとベルリン―ケーニヒ（回想録）への注釈―」（中村勝巳編『歴史のなかの現代―西洋・アジア・日本―』）
ミネルヴァ書房
- 二〇〇二年 五月 「現代的都市経験の一断面 ベンヤミンと遊歩者」（共著『転換期の政治思想―二〇世紀からの問い―』）
創文社
- 二〇〇四年 一月 「学問の危機」と経験―西郷信綱『古典の影』に寄せて― 『法学研究』第七七巻一号
- 二〇〇五年 二月 「博覧会」と「百貨店」の時代―一九世紀精神史の一断面― 『教養論叢』（慶應義塾大学）第一二三号
- 二〇〇七年 一二月 「ワイマール共和国における時間意識の変化」 『法学研究』第八〇巻第一二号

二〇〇八年

一二月 「マンハイムのファシズム論」

『法学研究』第八一卷一二号

二〇一〇年

五月 「五月病」さまごま

『三色旗』第七四六号

一九八二年—二〇一一年各年度、雑誌『みすず』一月号、「読書アンケート」「今年印象に残った本」